第 19 回伊那新校再編実施計画懇話会

日時：令和７年２月３日（月）

18 時～19 時 30 分

会場：長野県伊那合同庁舎　講堂

＜次 第＞

１ 開　会

２ 県教育委員会あいさつ

３ 新構成員紹介

４ 会議事項

（１）第 18 回伊那新校再編実施計画懇話会のまとめ

（２）地域説明会報告

（３）視察報告

（４）今後のスケジュールについて

・開校までの全体スケジュール

・校名検討について

５ その他

＜次回の予定＞

【日時】　令和７年５月頃（予定）

【場所】　（調整中）

【内容】　・校名検討について

・各小部会から進捗状況の報告

６ 閉　会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第１　県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第 138 条の４第３項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第２　懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

（１）学校像、教育方針等に関すること

（２）校地・施設・設備等に関すること

（３）管理運営等に関すること

（４）教育内容等に関すること

（５）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

（構成員）

第３　懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、ＰＴＡ、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

２　会議に座長を置く。

（開催期間）

第４　会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和２年 10 月 26 日から施行する。

第19回　伊那新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

◎印：座長　○印：新規　　（敬称略）

	区分	氏名	所属等
1	自治体	伊藤　徹	伊那市　副市長
2		片桐　健	飯島町教育委員会　教育長
3		◎本多　俊夫	駒ヶ根市教育委員会　教育長
4		田中　章	上伊那広域連合　前事務局長
5		唐澤　直樹	上伊那広域連合　事務局長
6	産業界	田畑　和輝	伊那商工会議所　監事
7		春日　俊也	駒ヶ根商工会議所　副会頭
8		黒河内　貴	株式会社仙醸　代表取締役社長
9	学識経験者	片山　茂	信州大学農学部　教授
10		髙橋　百合子	長野県看護大学　准教授
11	地域	河野　宏	一般社団法人上伊那医師会
12		中山　佳代	元上伊那地域の高校の将来像を考える協議会　委員
13		布山　澄	上伊那地域振興局　局長
14	同窓会	山田　益	伊那北高等学校同窓会　運営委員会委員長
15		下島　典子	伊那弥生ケ丘高等学校同窓会　会長
16	ＰＴＡ	小島　亜矢子	伊那北高等学校ＰＴＡ　副会長
17		○伊澤　朋和	伊那弥生ケ丘高等学校ＰＴＡ　副会長
18		浅川　直矢	上伊那ＰＴＡ連合会　参与
19	学校関係者	下島　弘子	上伊那小学校長会　会長（伊那市立高遠小学校長）
20		桐山　清一	上伊那中学校長会　会長（南箕輪村立南箕輪中学校長）
21		小池　景子	伊那養護学校　校長
22	統合校関係者	○池上　裕汰	伊那北高等学校　生徒代表
23		水上　ちはや	伊那北高等学校　生徒代表
24		○宮下　賢三	伊那弥生ケ丘高等学校　生徒代表
25		○阿部　翔浬	伊那弥生ケ丘高等学校　生徒代表
26		埋橋　浩	伊那北高等学校　校長
27		松村　真一	伊那北高等学校　教諭
28		松村　明	伊那弥生ケ丘高等学校　校長
29		唐澤　功	伊那弥生ケ丘高等学校　教諭

【事務局】

伊那北高等学校	
千葉　亮	教頭・事務局長
松村　真一	再編担当
倉石　典広	
桐生　祐治	
齋藤　仁美	

伊那弥生ケ丘高等学校	
佐々木　俊秀	教頭・副事務局長
唐澤　功	再編担当
竹松　ゆかり	
春日　雅博	
常田　真由美	
瀧澤　洋貴	ＩＣＴ担当

【県教育委員会】

高校教育課　高校再編推進室	
原　多恵子	主幹指導主事
高橋　正俊	主任指導主事
内山　みのり	主任指導主事
原　周一郎	主任指導主事

学びの改革支援課　高校教育指導係	
○中谷　幸裕	指導主事

第 18 回　伊那新校再編実施計画懇話会まとめ（案）

日　時	令和６年９月 24 日（火）午後６時から午後７時 30 分		
場　所	長野県伊那合同庁舎　講堂		
出　席 **（敬称略）**	伊藤 徹、本多 俊夫、唐澤 直樹、唐木 和世(代理)、春日 俊也、黒河内 貴、髙橋 百合子、 河野 宏、中山 佳代、布山 澄、山田 益、下島 典子、小島 亜矢子、加藤 茂、浅川 直矢、 下島 弘子、桐山 清一、大川 明水、森下 裕太、小林 紗菜、埋橋 浩、松村 真一、松村 明、 唐澤 功　（以上 24 名）		
欠　席 **（敬称略）**	片桐 健、田中 章、田畑 和輝、片山 茂、 小池 景子、鈴木 空芽　（以上６名）	**傍聴**	23 名、報道７社、オンライン 16 名
事務局	伊那北高校	千葉教頭、松村教諭、倉石教諭、桐生教諭、斎藤教諭	
	伊那弥生ケ丘高校	佐々木教頭、唐澤教諭、竹松教諭、春日教諭、常田教諭、瀧澤教諭	
	県教育委員会	佐野高校再編推進室長、原（多）主幹指導主事、高橋主任指導主事 内山主任指導主事、原（周）主任指導主事	
会議事項	（１）第 17 回伊那新校再編実施計画懇話会まとめ （２）伊那新校の校舎整備及び統合の方法について （３）その他		
当日資料	・次第、開催要綱、構成員名簿、第 17 回懇話会まとめ、３月からの経緯、案①「年次統合のイメージ」、アンケート調査の概要・質問内容・報告・集計結果、騒音について ・校舎整備等スケジュール３案比較 ・会場配席図、アンケート用紙(両面)		

主な内容(・意見、質問等　➡県教委　⇒生徒　→高校）

○会議事項

（１）第 17 回伊那新校再編実施計画懇話会まとめ

第 17 回懇話会について事務局から説明。【質問、意見なし】

（２）伊那新校の校舎整備及び統合の方法について　※高校再編推進室より説明

○前回懇話会以降、３月からの経緯の説明

・伊那弥生ケ丘高校１学年ルーム長会より意見表明

○校舎整備等スケジュール３案の説明

案①：ローリング計画案/伊那北仮設/年次統合

案②：案③の１年前倒し案/伊那弥生ケ丘仮設/一斉統合

案③：第 17 回懇話会に示した案/伊那弥生ケ丘仮設/一斉統合

○年次統合について説明

○７月実施のアンケート調査の報告

○騒音についての説明

○質疑応答

・案①は案③にかかる費用よりどれだけ大きくなるか。

➡具体的な数値は示せないが、現在、知事部局と相談をしている。

・案①では年次統合に伴い伊那弥生ケ丘の学級数が減っていき教員の人数も減ると予想するが、生徒の進路保障はできるのか。

➡確かに教員数は減るが、生徒の学びや進路指導に支障がないようにする。

・整備費用の関係でできなかったということがないように、明確な数値を示す必要があるのではないか。

➡ある程度の予算の目安はついており、建設の材料費や人件費の高騰にも対応できるように準備する。

・部活動について、両校の特色ある部は人数が少なくなっていく中でどのように行っていくのか。

➡高体連は完全統合の２年前から合同チームでの参加が可能になる。

・令和９年度に伊那弥生ケ丘高校に入学を希望する生徒はいるか。

➡入学者を確保できるように魅力ある学びや、新校との合同の学びを示していく。

・案①のスケジュールは最短での工期となっているが、工事が遅延した場合、開校は遅れていくのか。

➡工期は現時点での予定。工期内に完了するように努めたい。

・令和８年度、９年度に伊那弥生ケ丘に入学した生徒が一斉統合で、新校に転校することはできないか。

➡質問のように、伊那北、伊那弥生ケ丘の生徒が令和 10 年度に伊那新校に一斉転校する案が、３月に示したものである。アンケート結果をみると、この案は半数を越えていない。ご意見として承る。

・年次統合だと、伊那北の校地では、２年間、１つの校地に２つの学校が存在することになる。行事や授業などやりづらいと想像する。年次統合のメリットとデメリットを教えてほしい。

➡一斉統合をしない理由の１つとして、入学した高校の校地で卒業したいという意見が多かった。年次統合でのデメリットについては、これまでの質問に出た内容と承知している。このデメリットを生徒に感じさせないように環境を整えたい。

・アンケートの生徒の回答率が、伊那北で 36%、伊那弥生ケ丘で半分程度と信憑性がないように感じた。
➡アンケートについては、リマインドをかけたり、期限の延長なども行った結果である。自分事と捉えられなかったり、お任せすると考えた人もいると推察する。回答いただいた内容には想いが詰まっていたので信頼してよいと判断した。案①は両校の先生や生徒の考えを踏まえており、このアンケートだけで作成したものではない。

・回答率が低かった理由を生徒に聞きたい。
⇒私は懇話会に参加しているから理解できるが、情報を得ていない生徒には難しかったかもしれない。
⇒論点が異なるが、今の２、３年生は新校に直接かかわらないが、アンケートには回答したかった。
⇒１年生にはわかりにくいかもしれない。

・大人の想いと子供の想いは違い、入学して間もない１年生に聞いてもわからないことが多いかもしれない。学校生活を経験している２年生、３年にも意見を聞く必要があったのではないか。どうしてアンケートに答えられなかったのか把握するべきではないか。
→（伊那弥生ケ丘でのアンケート実施方法を説明）クラス担任から３つの案を中立の立場で丁寧に説明してから実施した。
➡アンケート依頼の際に、３案のメリット、デメリットを表にした資料を添えている。

○意見交換

・案①は壊しながら造るので安心安全とは思えない。北側のグラウンドに校舎を建てる案を考えてほしい。
➡通学路を上ったときに正面に校舎があるという正面性と既存校舎との位置関係を重視して南側への校舎配置が良いと判断した。

・仮設校舎にお金をかけるよりも教員にお金をかけてほしい。また、令和８年度から新校に移行すれば効率的であるがいかがか。
➡建設費と人件費は別で考えている。令和８年度から統合ではないが、カリキュラムをそろえることは可能。

・新校の教育内容を教えてほしい。また、上伊那全体の高校をどうしていくのか考えながら進めてほしい。諏訪や松本からも来てくれるような情報発信をお願いしたい。
➡新校がどのような学びになるか浸透していないのは県教委の責任。11 月頃に地域説明会を開催する予定で、来春の受験生に安心感を与えられるように進めていきたい。

・伊那新校の名前を先に決めたらどうか。
➡伊那新校の校名検討については次回の懇話会で示したい。

・現在、両校で 11 クラスの募集があり、伊那新校では８クラスに減ることが決まっている。募集定員の発表はいつか。
➡募集学級数は開校の前年度、つまり令和９年度の秋頃に公表する予定。

・伊那新校に関係する中学校２年生、３年生の話を聞いてほしかった。高校１年の保護者は説明が欲しかったと言っている。説明があれば仕方なくでも納得はしたと聞いている。入学希望者に説明をしておくことが重要である。また、校名を決めるのは早めた方が良い。
➡繰り返しになるが、地域説明会の開催を考えている。新校の校名検討については来年度中に決定したい。

・先ほどの校地の北側に校舎を建てる意見についてはどうか。
➡懇話会やＮＳＤ会議で検討していただき県教委で決定したので、北側に建てることは考えていない。

・高校生は大人であり、理解して行動している。これは共通認識としてほしい。また、現場の先生方の意見を最大限尊重してほしい。この懇話会の初めから参加しているが、いろいろな想いが積み重ねられてきている。先ほどの生徒の意見なども大事にしていただくような会議の進行をお願いしたい。

・ＮＳＤ会議に関わってきた。北側に校舎を建てる意見は候補としてあったが、北側に校舎を造ると体育館等の移動に時間がかかり休憩時間が足りないという意見が生徒や先生から多く出た。これらの意見を尊重して南側にまとまった。具体的に校舎整備等のスケジュールが決まらないと前に進んでいかないと感じている。

・３月に出された提案には、生徒や教員、地元の意見が反映されず先に進みそうになった。正確な情報共有と２、３年生を含めた生徒や教員、地元の意見を聞くことを改めて求める。

・(座長まとめ) ３月から半年間、検討してきた中で、ゼロベースに戻すべきではない。いろいろな意見がでたが、案①が良いと考えるがいかがか。
➡案①ローリング計画案について、現場や地域の意見をいただきながら設計チームと相談して進めていく。

（３）その他　　※高校再編推進室より説明

○小中学生やその保護者、地域の方々を対象とした地域説明会の開催について

その他

【次回懇話会】

・日時　令和７年１月頃（予定）　　・会場（調整中）　　・内容　開校に向けた進捗状況の報告

第 18 回伊那新校再編実施計画懇話会　構成員アンケートまとめ

【伊那新校の校舎整備及び統合方法について】

・案①を支持します。今回の校舎整備スケジュールについては、十分な議論と説明がなされており、今後のスケジュールを考えると整備については、生徒と教員の皆さんの意見を第一に尊重し、早期に進める必要があります。
・統合についても、年次統合でよいと思います。部活や文化祭など心配される問題は、統合して行うなど、早めに対応して課題解決を図るようお願いします。
・伊那北高校１年生が答えたアンケート結果より、案①と案③を支持する人が多い。案②は極端に少ない。案①と案③は高１の生徒が移動することはないので支持されたのだと思う。移動するというのはとてもストレスのかかることだと思うので、案②、案③は消してしまってもよいのではないか。
・案①で良いと思います。
・いつまでも足踏みをしているわけにはいかない。県が考えている案①で進めていくことがよいと思う。
・再編推進室としてある程度計画が決まっているのなら、「～案を軸に意見を出してください」、「～案に改善点や現状の懸念事項を検討しましょう」など、意見の集約方法があったかと思います。３つの案への議論の最中に、「よろしければ①のローリング案に」と、なりましたが、その方向にはまだ議論は進んでいませんでした。
・地域の声、学校現場の声、生徒の声等を踏まえた方向で計画が進むことを期待しております。
・３月の懇話会を受けて、生徒の思いや意見をできる限り反映させた案を大切にすることが一番よいと考えます。
・音が話題になっていましたが、揺れも気になるところです。学習を気持ちよく行える環境を整えて頂きたいです。
・案①では、数年にわたる工事の期間、伊那北高校の生徒が安全に学校生活を送ることが最も重要であると考える。
・進学を控えた中学生や在学生、保護者に向けて、工事期間中どのような安全対策（通学路や構内の導線など）を行う予定であるか、具体的かつ丁寧に説明していただきたい。
・校舎整備は安全に行ってほしい。伊那北生の学習面への影響は最小限になるように検討してほしい。
・年次統合はやはり寂しい気がします。行事なども小規模になってしまうので、一緒にやるなら一緒にやるで、早い段階から各校の生徒会に下ろして頂きたいです。そうして頂けたらこちらもどのような形をとるか考えていきます。
・両校は偏差値が近く、通学する生徒の心情は複雑だと思います。その部分だけに配慮して進めることは、スピードを遅らせてしまうのではないかと懸念しています。決定することは早く決め、納得のいく説明をして進めてほしいと思います。

➡施設整備について、伊那北校地での学校生活や学習環境に可能な限り支障のないように配慮していきたいと考えています。

＜参考＞　懇話会で示した校舎整備等スケジュール　３つの案

案①「ローリング計画案」	（伊那北仮設・年次統合・令和７年度着工）
案②「案③の１年前倒し案」	（伊那弥生ケ丘仮設・一斉統合・令和７年度着工）
案③「第 17 回懇話会に示した案」	（伊那弥生ケ丘仮設・一斉統合・令和８年度着工）

【全体をとおして】

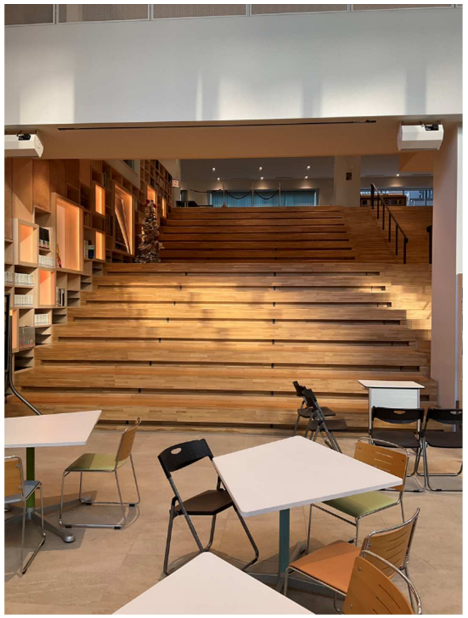
・すでに決まっていて動かせないことを明示し、共通認識をもって会議を進めてほしいです。意見やアンケートは聞けば聞くだけ広めれば広めただけ多くの様々な気持ちが集まり、複雑になりスピードを遅くします。「決定していること→それに向かうにはどうするか」についてもっと話したいですし、令和 10 年度の統合が決まっているならば、急いで（慎重に）進めていかなくてはいけないと少し焦っています。「未来の子どもたちのために」どう１歩ずつ進んでいったらいいのか。いろんな立場から良いアイデアを集められる会議にしてほしいです。
・構成員が交代すると話が振り出しに戻ってしまう。もっと生産的に議論したい。
・対話を重ねてくださっています。振り出しにもどることの無いように、決まってきたことが、さらに前に進むことができるように、大前提として、今までに決まってきたこと、確認されてきたことを時系列で、端的に紙面で共有できると大変ありがたいと思います。お疲れ様でした。
・自分が小、中学生だったら制服や校則も気になるところです。大変だと思いますが同時進行で決めていただけると嬉しいです。
・小学生含め「あの高校に入りたい」と思えるカリキュラム、特徴ある校舎、校門等、ソフト・ハード面の工夫を望む。

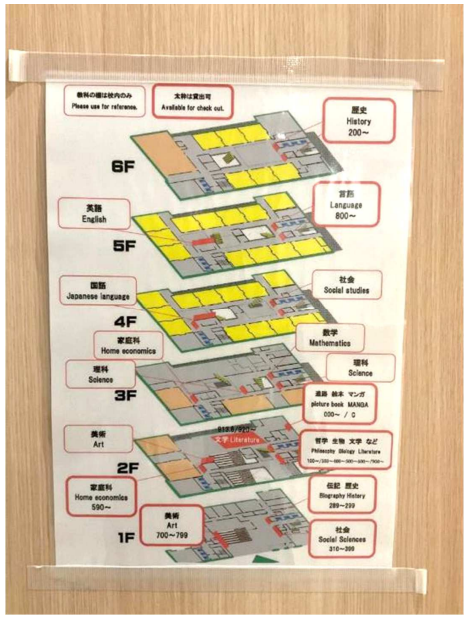
➡今後の懇話会では、伊那新校設立準備委員会の各小部会から検討内容の進捗状況を報告していく予定です。

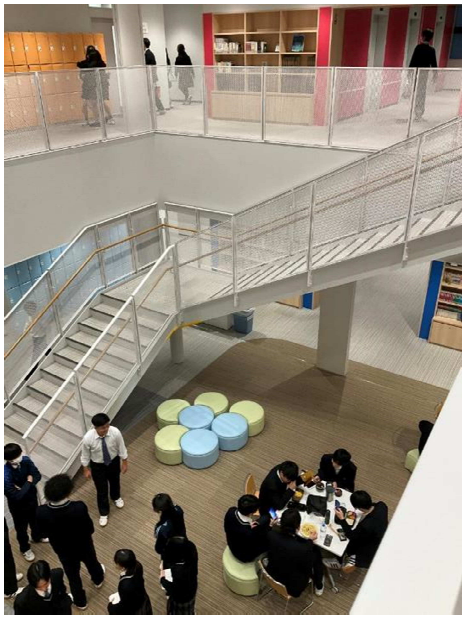
・９月 24 日の懇話会でどこまでの結論をだす必要があるのか、なにを決めたら終わりなのかを最初に明確にして頂きたかったです。
・事前資料として配布された資料とは内容が異なる案を当日に急遽提出されましたがこのやり方では事前に資料を確認して準備をしている意味がなくなってしまいます。変更した案で資料作成まで終わっているのであれば、直前でも配布していただきたかったです。
・学生から部活や行事についての懸念事項があがってきていました。大人が優先的に考えていることと、学生が優先的に考えていることの焦点がズレている気がしました。
・学生からは学校生活、部活動への不安など、実際に統合が進んでいく過程での不明点を不安に思っている気がしますが、９月 24 日の懇話会での大人の最優先議題は校舎の建設についてでした。今後の懇話会の時期と内容をもう一度見直して頂き、どの時期になにに注視して話合いをしていくか明確にして頂きたいです。
・構成員からの質問、意見に対して的確な回答をしていない印象が残っています。「出来なかったら」の質問に「出来るように進めています」や、「３案に建設費の大小の記載がありますがどれほど金額が違うのか」の質問に「明確な金額は出せていません」など、こちらとの対比で何%増などの具体案を開示して頂きたかったです。ただ、「〇よりも△のほうが、建設費がかかります」と言われても、イメージができないですし、無駄金にならないようにと意見が出ているのに検討や比較ができません。
・上伊那総合技術新校の学校像の検討をしている懇話会での資料を確認させて頂きました。構成員が入れ替わっていることもあり、同じことを何度もやっているような状況や、意見があがっているが結論が出ていないところもあるようです。今後の懇話会でも議論が重複したり、結論が出ないままで放置されてしまわないように対策が必要かと感じました。

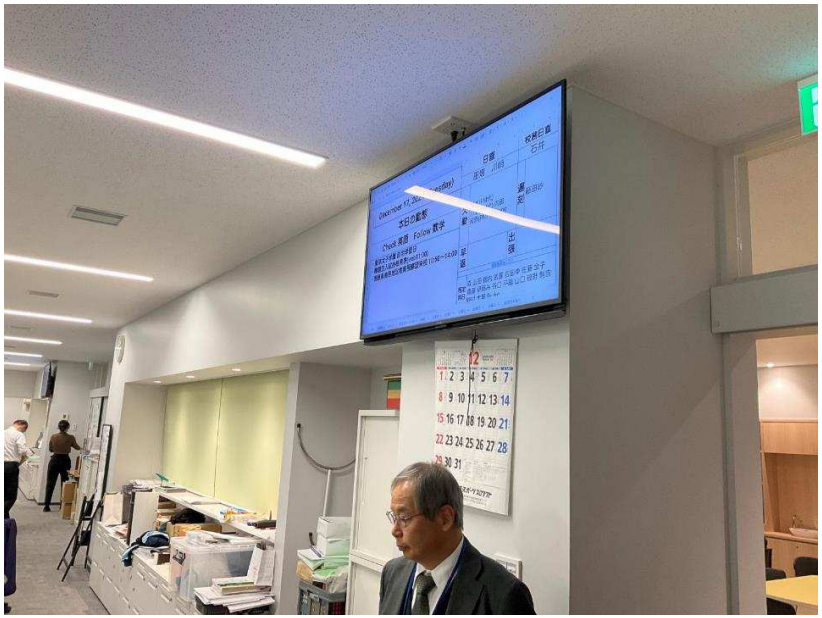
➡今後の懇話会の進め方の参考とさせていただきます。

東京女子学園中学校・高等学校
芝国際中学校・高等学校
視察報告









伊那新校（仮称）　開校までのスケジュール案（令和７年１月現在）

※校名については、正式には開校前年度に議会で決定する。それまでは（仮称）を付ける。

	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
旧第８通学区	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
高校入学対象者数	1,634	1,686	1,546	1,567	1,545	1,538	1,567
入学対象者数前年増減	-94	52	-140	21	-22	-7	29
県議会				●校名の正式決定(条例改正)			
教育委員会		●校名の決定※	●設置学科変更を承認	●募集学級数の決定			
懇話会	校名募集要項	校名募集・選考・候補決定		校歌・校章の提示			
	学びに関する意見交換	教育課程案の提示					
	新校準備委員会の各小部会の進捗状況報告と意見交換						
学校生活 使用校舎	新入生 在校生 保護者 説明	仮設校舎 (１期)引越	既存校舎＋仮設校舎(Ⅰ)	新校舎(西棟)・ 仮設校舎(２期)引越	新校舎(西棟)＋仮設校舎(Ⅰ・Ⅱ)		新校舎 引越
学校生活 校舎整備		解体工事(Ⅰ) 仮設校舎(Ⅰ)建設	新校舎(西棟)建設 仮設校舎(Ⅱ)建設	解体工事(Ⅱ)	新校舎(南棟・東棟・小体育館)建設		仮設校舎解体工事
伊那新校準備委員会 校名	校名募集 要項策定	校名 募集	校名選考 一次選考・二次選考	校名 決定			
伊那新校準備委員会 校歌・校章			校章制作期間 6～12ヵ月	決定			
			校歌作曲期間 6～12ヵ月	決定			
伊那新校準備委員会 総務	検討事項　［教務関係］　・在校生の学習保障　・入学者選抜への対応　・内規の整理　・校則の整理　・合同職員会 ・校務分掌の整理　・大規模行事の検討　・ICT関係(C4th含む)　・閉校行事 （各小部会）［生徒会関係］・制服・ジャージの検討　・クラブ活動（クラブの整理と活動場所の確保） ・生徒会組織の検討　・生徒会会則の整理　・生徒会会計の整理 ［渉外関係］　・PTA組織の検討　・PTA会計の整理　・同窓会 ［引越関係］・備品等の要否確認　・引越の予算確保とシミュレーション　→引越関係は前年予算要求				［同窓会］ ・閉校行事の確認	両校 閉校式	
					［引越関係］ ・備品等の要否確認　・引越の予算確保とシミュレーション ・FLAやMC(メディアセンター)の新規備品検討　→　設計チームと検討		
伊那新校準備委員会 教育課程 学習指導	教育課程・学びの イメージ検討	［教育課程の検討］ ・設置学科　・２学期制 or ３学期制　・日課の検討 ・くくり募集、前期選抜、後期選抜　・単位制 ・必履修科目（単位数の検討と決定） ・学校が定める必履修科目（科目、単位数の検討と決定） ・選択科目（科目、単位数の検討と決定）など ［学習指導の検討］ ・共学共創コンソーシアムの立ち上げ ・探究学習への取組み　・授業評価の検討　など	教育課程・学びの イメージ決定				
伊那新校準備委員会 広報	地域説明会 ４回開催	ホームページの開設・発信　地域説明会の実施　ステークホルダーへの広報					
		小中学校への広報活動	中学生への広報強化				
		解体・新築工事に関する地元説明会【県建設部施設課・県教委施設係・再編室】→必要に応じて随時開催					

新校開校

第13回懇話会資料
R4.10.7

第12回伊那新校再編実施計画懇話会まとめ

日時・会場	令和4年（2022年）7月6日（水）　18時00分～19時00分　長野県伊那合同庁舎講堂
出欠席	懇話会構成員23名出席、欠席者4名（田中　章、田畑和輝、唐澤利海、杉本穂波） 事務局（県教委：山岸主幹、田中主任指導主事、石井主事、 伊那北高校4名、伊那弥生ケ丘高校4名）
傍聴者	傍聴17名（オンライン含む）、報道4社
会議事項	1座長選出 2会　議 （1）第11回伊那新校再編実施計画懇話会まとめ　（2）高校生からの意見について （3）NSDプロジェクトについて　（4）校名検討について　（5）意見交換（グループ討議） 3連絡事項　次回開催日時等は、改めて連絡
当日資料	第12回懇話会次第、令和4年度伊那新校再編実施計画懇話会構成員名簿、第11回懇話会まとめ、 NSDプロジェクトkick offシンポジウム報告資料、第1期高校再編時の校名選考について、 伊那新校　校名選考の進め方について、将来の教育を考える意見交換会実施報告

主な意見及び発言（⇒県からの回答）

【高校生からの意見について】

○多様な進路に対応したよりよい地域との連携を考えてほしい。
○柔軟な選択科目の選択の仕組みと進路についてのサポートを考えてほしい。
○ICT機器の充実や活用を進めてほしい。
○海外との交流を取り入れていってほしい。
○高校生の意見を吸い上げてほしい　など
⇒高校生の意見を積極的に取り入れていくとともに、引き続き高校生との意見聴取の工夫をしていく。

【NSDプロジェクトについて】

・NSDプロジェクトKickOffシンポジウムの動画での振り返りと概要についての報告。
・7月末にプロポーザル公告、一次、二次審査の上、11月中下旬の予定で業者が決定していくと説明。
○学ぶ子どもたちの姿はどのような想定か。また、新校で身に付ける力や新校の目指すものは何か。
⇒新校の目指す姿や子どもたちの学ぶ姿の想定については、再編実施基本計画の中で、自らの可能性を切り開いて夢の実現に果敢に挑戦する高校として学校像を示している。また、育てる生徒像も再編実施基本計画の中で示しており、個人と社会のウェルビーイングというものを大枠として目指している。
○建築との関わりはどうなるのか。
⇒伊那新校での学びから必要とされる空間が決まっていく。設計に向けて話し合いを重ねていく。

【校名検討と進め方について】

校名選考の時期について
○決定の時期は早いほうがよいのではないか。公募したらすぐに決めていく方がよいと思う。
○募集するに当たって新校が目指しているもの、何をやろうとしているかが具体的に示されない状況では時期尚早ではないか。具体的なことを示してから校名の募集で良いのではないか。
募集の観点について
○伊那北高校、伊那弥生ケ丘高校にとらわれず、新たな校名を考えていきたい。
○地域の思い、両校の伝統を感じられるような校名、地域をイメージできる校名がよいのではないか。
○わかりやすく100年経っても使用できるシンプルな校名、格式のある校名がよいのではないか。
○若い人たちの声を聞きながら考えていくのがよいのではないか。
○校名として除外する観点を決めておくとよいと思う。　など

第14回懇話会資料
R5.1.31

第13回伊那新校再編実施計画懇話会まとめ

時・会場	令和４年（2022年）10月７日（金）　18時00分～19時00分　ニシザワいなっせホール
出欠席	懇話会構成員24名出席、欠席者３名（片桐健、城村義人、有賀稔） 事務局（県教委：宮澤室長、山岸主幹、田中主任指導主事、石井主事、 伊那北高校４名、伊那弥生ケ丘高校４名）
傍聴者	傍聴12名（オンライン含む）、報道４社
会議事項	１会議事項 （１）報告　①第12回懇話会のまとめ　②両校からの近況報告 ③NSDプロジェクトの進捗状況について　④校名検討の今後の進め方について （２）意見交換　①校名検討について　②伊那新校での学びについて ２連絡事項　次回開催日時等は、改めて連絡
当日資料	第13回懇話会次第、第12回懇話会まとめ、第12回懇話会グループ討議記録、 伊那新校の校名検討についての今後の方針、伊那新校の学校像、伊那新校懇話会での意見、 会場配置図（席図）、意見交換ワークシート、伊那北高校からの資料（２種類）、 伊那弥生ケ丘高校からの資料（１種類）

主な内容（要旨）

【両校からの近況報告】

○伊那北高校から

・今年度入学生から、普通科に文系・理系コースに加え、学際コースを設置。文系で、外部とつながり、深く学ぶコースを新設した。（コースは２年次から）

○伊那弥生ケ丘高校から

・２年生の「新しい高校」をテーマにした探究学習の取り組みや、新しい高校についての意見や要望をまとめたものを伊那弥生ケ丘高校の生徒が発表。

・進路希望が実現できるように、選択科目を増やし、入試で使う教科を積極的に取れるようなカリキュラムにしてほしい。友達同士が教え合ったり、グループ討議がいつでもできたりする学習スペース。壁がホワイトボードとして使える施設など、学びや施設に対する意見・要望が発表された。

○大人が、高校生が必要としている学びや施設等の要望を理解するために、高校生との対話が必要

○生徒は一人ひとり違うので、それぞれが輝き、居心地のよい高校になるようハードとソフトの整備が必要

【NSDプロジェクトの進捗状況について】

○９月25日の一次審査により５者を選定。11月６日の二次審査で公開プレゼンテーションを実施する予定。

【校名検討の今後の進め方について】

○校名検討の進め方としては、情報発信の視点から、できるだけ早く校名を決定したいとの考えは変わらないが、教育内容や学びのイメージを共有することを重要視し、校名の公募については一旦先送りしたい。

○また、要項の検討については、これまで出された意見を大切にしつつ、時期を改めて行うこととしたい。

【意見交換】

○校名検討の募集の範囲について

・地域に根差した学校にするために、上伊那地域を対象とした方が良いが半数。

・一方、通学区は全県一区なので、県内には丁寧に周知をする必要がある。や、全国でOB・OGが活躍しているので、同窓生からの募集を考えると、範囲を限定しなくてもよいのでは、という意見も出た。

○伊那新校での学びについて（主な意見）

・先進的な取組：ICTの活用、海外の姉妹校とのオンライン交流、学校が選定したYoutube講義による自習

・小中で行った探究を生かし、上伊那の企業、自治体等の協力のより、「地域を学ぶ、地域で学ぶ、地域に学ぶ」探究学習の推進を要望。

・探究について、提示されたものの中から選ぶのではなく、子どもたちが自由に決められると良い。

・伊那新校に通う子どもたちが地域の企業・地域の産業を知ることは重要。地域経済団体との情報交換を。

・地域との連携については、運営に地域の企業が　継続的に関わり続ける仕組みを作ることが大切。

・地域の人と学生が交流できる場の確保、社会人がそれぞれの分野について話をする放課後等の時間の創出。

・遠方から通う学生のための寮があればいい。

小諸新校　校名募集の流れ

参考資料

高校再編推進室

長野県教育委員会

第1期高校再編時の校名選考の情報提供

⑪懇話会(R4.5.16)
選考の観点、選考方法について意見交換

小諸新校「校名」募集要項(案)の作成

⑫懇話会(R4.8.18)
小諸新校校名募集要項(案)について意見交換

小諸新校「校名」募集要項の決定

9月上旬～10月上旬
小諸新校「校名」募集の公募開始

同名校、権利侵害等の調査

【二次】投票

⑭懇話会(1月～2月)
校名案候補の決定(最終選考)

同名校、権利侵害等の調査

R5年4月or5月
教育委員会定例会で校名案の決定

R7年11月
県議会11月定例会で正式決定

新校準備委員会

選考の観点、選考方法の検討・原案作成

選考の観点、選考方法の再検討

応募された校名案の整理

【一次】投票

⑬懇話会(11月～12月)
公募結果の説明、校名案候補の一次選考

校名案候補　一次選考の整理

再編対象校の校長から具申

参考資料

小諸新校　校名募集要項【概要】

公募期間	１か月
選考の観点	①校名は「長野県　～　高等学校」とする。 ②小諸商業高等学校と小諸高等学校の歴史や伝統を引き継ぎつつ、生徒たちが新たな学びに大きな希望を抱き、未来に向かって育っていくことができる学校像が表現されている。 ③「学科・教科横断型の学び」のできる普通科・商業科・音楽科が融合した学校として分かりやすい校名である。 ④「地域と連携した本物の学びに触れる」ことを進める学校として、地域の願いや期待が表出されている校名であること。
選考方法	校名選考にあたっては選考の進め方や方法、公募結果、選考結果を懇話会にて報告し、意見交換を行った上で実施する。 〔一次選考〕 ・公募結果を参考に構成員による一次投票を行う。 ・公募及び一次投票の結果を参考に懇話会で校名案を３案程度にしぼる。 ・校名案の再検討を含め、構成員からの案を二次投票の対象に加える。 〔最終選考〕 ・二次投票の対象となった校名案候補に対し、商標権等の調査を行う。 ・商標権等の調査結果を踏まえ、構成員による二次投票を行う。 ・商標権等の調査及び二次投票の結果を参考に懇話会で校名案候補を選考する。
公募方法	①期間：令和４年９月９日　～　令和４年 10 月８日 ②内容：校名案と理由 ③方法：応募資格の制限はなく、郵便、FAX、電子メール、事務室への持参

実際は７案を候補とした

実際は懇話会構成員の投票とは別に、両校の生徒と職員も投票を行い最終選考の参考とした。

参考資料

令和８年４月開校

小諸新高校校名募集

新高校の概要
所 在 地：長野県小諸市田町三丁目１－１
（現在の小諸商業高等学校の校地）
学科構成：普通科・商業科・音楽科

小諸新校「校名」募集要項

１ 目　　的

長野県小諸市に令和８年４月に開校する小諸新校（小諸商業高等学校と小諸高等学校の統合校）について、長野県教育委員会が進める「新たな学校づくり」に多くの皆様の参画を求めることを目的に、新校の校名を募集します。

２ 募集内容

新高校の校名案（「長野県○○高等学校」とする。）
なお、所定の応募用紙にその校名とした理由を付記してください。

３ 応募の留意点

以下を参考として応募してください。

【新校の概要】
（１）学 科 構 成：普通科・商業科・音楽科
（２）めざす学校像：地域を舞台に多様性を重視しグローカルな視点で未来を創造する３科融合校
（３）所　在　地：長野県小諸市田町三丁目１－１（現在の小諸商業高等学校の校地）

【下線部をイメージして校名案を考えてください】
①小諸商業高等学校と小諸高等学校の歴史や伝統を引き継ぎつつ、生徒たちが新たな学びに大きな希望を抱き、未来に向かって育っていくことができる学校像。
②「学科・教科横断型の学び」のできる普通科・商業科・音楽科が融合した学校。
③「地域と連携した本物の学びに触れる」ことを進める学校として、地域の願いや期待が表出されている校名。

４ 募集期間

令和４年９月９日（金）から令和４年10月８日（土）まで（郵送の場合、締め切り当日の消印有効）

５ 応募資格

どなたでも応募できます。

６ 応募方法

（１）郵送またはＦＡＸによる応募（応募用紙を使用してください。）
（２）はがきによる応募（下記の必要事項を記載してください。）
（３）電子メールによる応募（下記の必要事項を記載してください。）
件名を【小諸新校の校名応募】としてください。

【必要事項】
①新高校の校名案（ふりがなを記入してください。）
②その校名とした理由
③住所（都道府県・市町村）・電話番号・氏名（匿名不可）
（団体で応募される場合は、団体名と代表者氏名を記入してください。）

＊必要事項を充たさない応募は選定の対象外とします。

７ 選定方法

小諸新校再編実施計画懇話会での検討を踏まえ、県教育委員会において決定します。

８ 結果の公表

県教育委員会ホームページ等で決定された校名案と応募者氏名を公表する予定です。